

※ 網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

（1）基本目標

・「人権尊重の教育」を基盤とし，学びに向かう力や豊かな人間性の涵養を図る教育活動の実践を通して主体的・創造的に生きる，人間性豊かなたくましく生きる児童を育成する。

（2）具体目標（具体的な児童像など）

・思いやりのある子ども（思いやり星） ・よく考え進んで学ぶ子ども（学び星）
 ・健康でねばり強い子ども（健康星） ・働く喜びを知る子ども（働き星）

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

「思いやり・健康・働く喜び・共に学ぶ 楽しい学校」

子どもたちが夢を抱き，未来に向かって成長し続けるための基盤を培うべく，愛情と使命感をもって，全力で教育にあたっていく。そして，思いやりがあり，生き生きと学ぶ児童を育成し，児童・教職員・保護者・地域が共に学ぶ楽しい学校を目指す。

楽しい学校とは，「児童にとって，わくわくして登校し，楽しい一日を過ごし，満足して下校できる学校」「教職員にとって，自分のもてる能力を十分に発揮できる，やりがいのある学校」「保護者にとって，安心して子どもを通わせ，積極的・主体的に協力できる学校」「地域にとって，信頼でき，積極的・主体的に協力できる開かれた学校」である。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

（1）学校運営の適正化

創立 149 年目を迎える本校の歴史と伝統を継承し，児童・地域の実情を踏まえ，学習指導要領に基づき，学校や児童の実態に即した創意ある教育課程を編成する。児童を主体とする活動の充実を図ると共に，地域の教育力の導入を推進し，活気あふれる学校づくりに努める。

（2）教職員の資質の向上

教育公務員として法令を遵守するとともに，人づくりの使命感に立ち，学校や保護者・地域の実態を踏まえた実践的な研修に励み，自身の資質向上を図り，和と協働を基盤に，教職員一人一人の特性やよさを生かし，児童・保護者と共に学校づくりに努める。

（3）学年・学級経営の充実

児童一人一人の興味・関心・意欲や個性等に配慮し，主体的・対話的で深い学びに向けた学級集団づくりと，活力に満ちた教育活動の展開のための学級力向上に努める。

（4）学習指導の充実

児童主体の分かる授業，楽しい授業の展開に向けた授業力の向上に取り組み，基礎・基本の確実な定着を図り，思考力・判断力・実践力等を重視した体験的・問題解決的な学習を推進すると共に，主体的・対話的で深い学びの実現に向けた研究を推進する。

（5）豊かな心の育成

「特別の教科 道徳」を核とした指導と共に，様々な体験活動を通して，生命尊重・思いやり・感謝・勤労・奉仕等の豊かな心の醸成等を重視した教育を推進し，心豊かでたくましく生きる児童の育成に努める。

（6）児童指導の充実

全教職員の認識を共有し，児童・保護者・教職員間の信頼関係を深め，共感的理解に基づいた人間関係を確立し，日常のふれあいを通して，基本的な生活習慣や集団行動の徹底を図るとともに，社会性の育成に努める。

（7）体力の向上と保健安全教育の充実

本校の課題である児童の体力向上を目指し，自ら進んで運動に親しみ，健やかな体を育む保健体育指導の充実を図ると共に，健康・保健・安全指導の推進に努める。

○（8）地域学校園・小中一貫教育の推進及び特色ある学校づくり

地域の教育力を生かし，家庭・地域・関係諸機関との連携・協働を図りながら，充実した地域学校園・小中一貫教育の実践に努める。また，児童が主体となった勤労生産活動や奉仕的活動を積極的に取り入れた，特色ある学校づくりに努める。

（9）地域とともに歩む学校づくり

地域の教育力の活用及び発掘を推進すると共に、年間を通してのフリー参観や土曜授業等の実践により、学校と保護者地域等の信頼関係を深め、地域に開かれた学校づくりに努める。また、地域協議会・地域諸団体と連携・協働し、地域に根ざした学校づくりを目指す。

[横川地域学校園教育ビジョン]

「豊かな心の育成を目指す 横川地域学校園の小中一貫教育」
～自分、人、地域を大切にすることの育成を目指して～

4 教育課程編成の方針

- (1) 教育課程の編成に当たっては、公教育の立場から日本国憲法・教育基本法・学校教育法及び同施行規則並びに小学校学習指導要領の基準に基づいて編成する。
- (2) 学習指導要領の基本的なねらいである、基礎的な知識及び技能を習得させること、習得した知識や技能を活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力を育むこと、主体的に学習に取り組む態度を養うことの実現に向け、それらにバランス良く取り組める教育課程を編成する。
- (3) 「栃木県教育振興基本計画2025」に示された基本理念である「とちぎに愛情と誇りをもち 未来を描き ともに切り拓くことのできる 心豊かで たくましい人を育てます。」を目指し、「確かな学びを育む教育の充実」に基づいた教育課程を編成する。
- (4) 宇都宮市「第2次学校教育推進計画」(うつのみやいきいき学校プラン)を基に、その施策の柱である地域学校園構想・小中一貫教育を円滑に実施していくことを考慮して編成する。
- (5) 本校教育目標・本年度の経営方針や努力点・学校課題等を踏まえるとともに、地域社会の要望、保護者の願い、本校の実情や児童の実態・特性等を十分に考慮して編成する。
- (6) 前年度の成果や反省を生かすとともに、各教科、特別な教科「道徳」、総合的な学習の時間及び特別活動の4領域の関連を図り、調和と統一のある編成に努め、ゆとりある充実した教育課程を編成する。(教科横断的な視点より)

5 今年度の重点目標(短期的視点) ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

(1) 思いやりの心の育成

「特別の教科道徳」を核とした心の教育の充実や、人権尊重の精神の涵養を目的とする教育活動の推進を図る。

(2) 学力向上

主体的・対話的で深い学びを促す学習指導と評価の工夫・改善(授業力の向上)や、子どもたちの良好な人間関係(学級力)を高め、学びに向かう力や豊かな人間性の涵養を図る。

(3) 体力向上

児童の実態を踏まえた課題や重点的に取り組む内容を精査し、教科体育を含む各種運動の活性化を図り、運動に親しませ、児童の体力向上に努める。

(4) 地域と共に歩む学校づくり

家庭・地域並びに地域学校園の教育力を積極的に活用し、活気あふれる学校づくりに努める。

【学校運営】

- ・教職員が児童と向き合える時間の確保に向け、業務の効率化に努めると共に、出退勤時刻の管理に係る取組により、労働時間の適正化を推進する。
- ・共同的な学びの実現に向けて、教職員自らが学び合い、授業力や学級経営力等の資質の向上に向けた取組の推進に努める。

- 主体性と独自性を生かした学校経営を推進すると共に、地域学校園に係る事業の効果的で円滑な運営に努める。(乗入授業、研究授業、相互授業観察等の交流、外国語教育に係る授業力向上を図る取組の充実、等)

【学習指導】

- ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、以下のテーマで研究に取り組む。
「主体的に、自分の考えや思いを表現し、学び合う児童の育成」
～ICTを活用して、言語活動「書くこと」の充実を目指す～

【児童生徒指導】

- ・道徳的な判断力、実践力を育むとともに、体験活動や読書活動の充実により豊かな感性を育む。
- ・いじめ防止基本法に基づき、「特別の教科 道徳」や児童会が主体となった集会活動など様々な教育活動の場の設定により、児童の規範意識や正義感、思いやりの心の育成に努める。

【健康（保健安全・食育）・体力】

- ・教科指導の充実や学校行事、児童会活動等の機会を通して、運動に親しもうとする態度・能力や、健康を大切に管理する態度の育成を図る。
- ・給食指導を中心に、より良い食習慣について児童自らが考え実践できるよう指導の充実を図ると共に、家庭・地域と連携して、生涯にわたって心身ともに健康で安全な生活を送るための資質・能力の育成を図る。

6 自己評価項目（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。
 ※「主な具体的な取組」の方向性にはA拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
目指す児童の姿	A 1 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、授業中、話をしっかりと聞いたり、発表したりするなど、進んで学習に取り組んでいる。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	① 話の聞き方や発言・発表の仕方、ノートのとり方など基本的な学習習慣・態度・技能を身に付ける指導の充実を図る。一人一人が意見を発表しやすい学級の雰囲気づくりに努める。 ② 授業中の約束について、学年の発達段階や実態に応じた指導を行い、定着を図る。 ③ 授業において、児童が自分の思いや考えを豊かに表現できる学習活動を重視する。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答率 94.0% ・目標値を上回った。 ・学習用具のきまりが定着できた。 ・授業の前に着席し、チャイムを守る行動はできてきている。 ・話型を活用することで、学年に応じた話し方や発表の仕方が定着してきた。引き続き、話の聞き方や発表の仕方を各クラスで掲示し、活用していく。 【次年度の方針】 ・話の聞き方や発表の仕方の指導は、引き続き行っていく。 ・横川中央小の授業中の約束を各教室に掲示し、随時確認する場を設けることで、児童の意識を高める。
	A 2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 ⇒保護者の肯定的回答 90%以上	① 縦割り班活動・奉仕活動を中心とした異学年交流や体験活動の充実により思いやりの心を育成する。 ② 学校行事や体験活動等と関連を図った道徳科の授業を実施し、生命や人権を尊重する心や人を思いやる心などを育成する。 ③ 教育活動全体を通して、人権教育を推進し、違いを認め、他を尊重する態度を育てる。また、思ちゃんコーナー、思ちゃんカードを積極的に活用し、人権教育活動の活性化を図る。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答率 92.6% 保護者の肯定的回答率 94.8% ・目標値を上回った。 ・感染症対策をしながら縦割り班活動や奉仕活動の充実にも努めた。 ・年間を通して計画的に校内掲示板「思ちゃんコーナー」の充実にも努めた。各学級においても、人権週間の取組や思ちゃんカードを積極的に活用し、互いの違いを認め、他を尊重する態度の育成にも努めた。 ・いじめゼロ集会で、友達を思いやる態度の育成にも努めた。 【次年度の方針】 ・今後も継続して取り組み、思いやりの心の育成や人権教育活動の活

目 指 す 児 童 の 姿	<p>A 3 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「児童は、きまりやマナーを守って生活している。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 生活目標（短期的な具体目標）を設定する。「学校は社会のルールを学ぶ場である」という共通理解のもと、全教職員で指導内容を明確に把握し、基本的な行動様式の指導を徹底していくことで、習慣化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉遣いや廊下歩行について重点的に取り組む。生活当番による校内巡視の強化や児童会を中心とした取組を継続して行う。教職員も認めて褒めて励ます指導に努めることで、規範意識の醸成を図る。 ・道徳科の授業や学級活動を中心として、きまりやマナーを守ることの大切さについて考える教育活動の場を設定することにより、児童の規範意識、思いやりの心の育成に努める。 <p>② <u>横川地域学校園で推進する時間・言葉づかいの指導の徹底を図る。</u></p>	<p>性化を図る。</p> <p>【達成状況】 児童の肯定的回答率 89.1% ・目標値に達することができなかった。 ・生活当番による校内巡視や児童への声掛けを行った。児童会では、あいさつ中心の活動になってしまったため、次年度に規範意識を高める取組をしたい。 ・打合せや生活当番の場で、教職員間で情報を交換しながら指導内容を明確に把握し、指導の徹底に努めた。</p> <p>【次年度の方針】 ・児童会で、規範意識を高める活動や呼び掛けを実施する。 ・時間を守ることや言葉遣い、廊下歩行等、指導内容の重点化や取組方法を再検討・改善することで、規範意識の醸成を図る。</p>
	<p>A 4 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① <u>家庭や地域団体と連携しながら、あいさつの日常化を図る。</u>学級や学年集会等であいさつの大切さを理解させたり、よくできている児童を称賛したりするなど、礼儀やあいさつに対する意識の高揚を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童会主体のあいさつ運動 ・教職員によるあいさつの励行 <p>② <u>横川地域学校園による「あいさつ運動」を実施する。</u></p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答率 95.1% 教職員の肯定的回答率 89.3% ・児童は目標値を上回ったが、教職員では下回った。 ・地域学校園による小中あいさつ運動強化週間やその他の期間にも、児童会を中心にあいさつの活性化に努めた。</p> <p>【次年度の方針】 ・これまでの取組は継続して行うとともに、感染状況を注視しながら、あいさつ運動を充実させ、よくできている児童を称賛するなどし、礼儀や挨拶に対する意識の高揚を図っていく。</p>
	<p>A 5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「私は夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 学期ごとに学習や生活のめあてを立て、振り返り活動を重視し、あきらめずに取り組めるよう認めて褒めて励ます指導に努める。</p> <p>② 学校行事や児童会活動、各種検定等での目標を持たせたり、役割を最後まで果たせたか振り返りの時間を確保したりする。</p> <p>③ 四つ星表彰や宮っ子教育表彰などを通し、児童が目標達成に向</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答率 88.3% ・目標値を若干下回った。行事や取組に依然として制限があることが要因として考えられる。 ・全校をあげて、学習や生活、清掃活動の頑張りを認める「めざせ四つ星マスター」の取組や、「読書の鉄人」の達成など、児童が意欲的に取り組む姿が見られた。</p> <p>【次年度の方針】</p>

	<p>けて努力したことを称賛する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事の再開，児童会によるイベントの開催，各種検定の内容の工夫などを通して，児童がより意欲的に，また目標をもって取り組めるようにする。 ・四つ星表彰や宮っ子教育表彰などを通し，互いに認め合う場を設ける。励ましの機会を設けるとともに，目標達成に向けて努力している児童を称賛する。
<p>A 6 児童は，健康や安全に気を付けて生活している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「児童は健康や安全に気を付けて生活している。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 児童が自分の健康に気を付けて生活し，自ら健康を管理できるように，学級活動，保健体育と関連し，休み時間の過ごし方・廊下の歩行や，手洗い・うがいの励行などの保健安全指導に努める。特に，感染症を予防するために，教室等の換気やできるだけ接触を避けるなどの生活の仕方について日常の指導を行う。</p> <p>② 学校給食と各教科等の関連を図り，栄養バランスのとれた食事やマナーの大切さ，望ましい食習慣の形成を図る。</p> <p>③ 危機を予測し，自らの命を守る行動力を育成するために，日常の安全指導を充実するとともに，交通安全教室，避難訓練等を計画的に実施する。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 児童の肯定的回答率 93.4%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肯定的回答が90%を上回った。 ・全教職員で共通理解のもと日常の指導を行い，さらに児童会各委員が呼び掛ける等，児童主体の活動として取り組むことにより，目標達成につながった。 ・給食時の栄養教諭の放送により，食に関する意識が高められた。 ・養護教諭が，感染症予防等，健康に関する放送を行うことで意識が高まった。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き，今年度の取組を行い，健康や安全に気を付ける児童の育成を図る。
<p>A 7 児童は，夢や目標をもって，社会に貢献できるよう努力している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「私は夢や目標に向かってあきらめずに，粘り強く取り組んでいる。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 宮・未来キャリア教育年間指導計画に基づき，全教育活動を通して，児童が自らのよさを自覚して夢や目標に向けて取り組もうとする意欲や，勤労の尊さや生産の喜びを体得させる活動を意図的・計画的に実施する。</p> <p>② 地域の取り組みや人材を紹介するとともに，<u>地域と協力した体験活動の機会を設ける。</u></p> <p>③ 各教科や学級活動と関連させながら，宮キャリア・パスポートを活用し，児童が将来の夢や希望を描いたり，目標の実現に向けて努力したりする意欲や態度を育成する。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 児童の肯定的回答率 88.3%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標値を若干下回った。 ・感染症予防の観点を踏まえつつ，行動等，体験活動の機会を設けることができた。 ・各教科等において体験学習の充実を図り，地域の消防署や警察署で働く人々や自分の夢に向かって努力し実現した方などをゲストティーチャーに迎え，勤労の尊さや喜び，人の生き方やなどに触れる授業を行った。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童が自らのよさを自覚し，将来の夢や希望に向かって努力できるよう，教育活動全体を通して場を設定する。 ・②については，感染症予防の観点から今年度も地域と連携した体験活動は難しかった。

目 指	<p>A 8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「児童は外国語活動の授業やALTとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションをしている」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 外国語活動や外国語の授業を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的に英語でのコミュニケーションを図ろうとする活動を展開する。</p> <p>② 授業以外にも、ALTと英語でのやり取りをする機会を設け、児童が英語にふれる機会を多くする。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答率 93.0%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標値を若干上回った。 ・外国語活動や外国語の授業で言語活動を行うことができた。 ・季節毎に英語の掲示物を作成し、掲示することで、英語を目にする機会が増えた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国語活動や外国語の授業での言語活動は今後も充実させる。 ・日常的に使えるフレーズを用いた掲示物を作ることで、英語に触れる機会を増やしていく。
見 童 の 姿	<p>A 9 児童は、宇都宮の良さを知っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「私は宇都宮の良さを知っている。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 学校図書館に宇都宮に関する書籍の常設コーナーの充実を図り、読み聞かせなどで宇都宮関連の本を取りあげたり、<u>学校だよりや学年だより等を通して「宇都宮学」</u>について掲載したりするなど、宇都宮に関する関心を高める。</p> <p>② 生活科、社会科、総合的な学習の時間の授業や地域での学習において、学習内容に関連させながら、児童が身近な地域や宇都宮市のよさに気付くような指導に努める。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答率 86.4%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標値を下回った。 ・昨年度からは3.1ポイント上昇した。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教科の学習内容と関連させながら、宇都宮市のホームページや書籍を活用して宇都宮市への関心を高める。 ・次年度も、読み聞かせで宇都宮関連の本を取りあげることで、宇都宮についての興味関心を高められるようにする。 ・1・2年の生活科や道徳の地域教材、3・4年の社会科、5・6年の総合的な学習の時間「宇都宮学」の学習の中で、宇都宮の良さをより意識できるような学習活動を工夫する。 ・学習に応じて、市立図書館から借り入れを行い、各学年に設置する。 ・給食の「宮っ子ランチ」の取組を通じて、宇都宮の歴史や良さへの理解をより深めるようにする。
	<p>A 10 児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「児童は、パソコンや図書等を学習に活用している。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 授業の中で実物投影機、デジタル教科書、一人一台端末等ICT機器を有効活用し、学習活動の充実を図る。</p> <p>② プログラミング学習の実施により、児童がコンピュータや情報機器に親しみ、適切に活用する能力を育成する。</p> <p>③ 随時蔵書を点検し、学習内容との関連に配慮した図書の整備と拡充のため、図書選定委員会を</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答率 90.0%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標値と同値だった。 ・一人一台端末の導入によって、児童の肯定率は高かった。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な教科でICT機器やタブレット端末を利用する場を多く設定することで、授業での効果的な活用を模索し、教師同士が互いに共有していく。

目 指 す 児 童 の 姿	<p>通して計画的に補充するなど学校図書館の環境整備に努める。</p> <p>A11 児童は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 高齢者への感謝や敬う心を育むために、生活科や総合的な学習の時間の授業などにおいて高齢者とふれ合う活動を設定する。</p> <p>② 道徳科を中心として、各教科で高齢者に関する授業を実施し、高齢者への理解や思いやりの心を育む。</p>	<p>・今後も、児童がタブレットに触れる機会の充実を図る。</p> <p>【達成状況】 児童の肯定的回答率 92.6% ・目標値を上回った。 ・学校全体としては、感染症対策のため、直接ふれあいの場を設定することができなかった。しかし、5年生は、総合の学習でひょうたん村とオンラインでの交流を行い、高齢施設及び高齢者の理解を深めると共に、高齢者への思いやりや感謝の心を育む活動を実施した。</p> <p>【次年度の方針】 ・各学年の実態に応じて、生活科・道徳・総合の時間などを中心に高齢者を思いやる気持ちを育む。</p>
目 指 す 学 校 の 姿	<p>A12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、環境問題や防災等の『持続可能な社会』について関心をもっている。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 総合的な学習の時間における環境教育やエコ活動等を通して、環境問題への関心を高め、環境と調和しながら生きる意欲や態度を育成する。</p> <p>② 学級活動や各委員会活動、中でも今年創設した環境委員会を中心として、児童が主体となる活動を設け、資源の節約や緑化など環境づくりを推進する。</p> <p>③ 図書資料を活用し、SDGsについて、主体的に学べる環境を整える。</p> <p>④ 教育活動全体を通して、人権教育を推進し、違いを認め、他を尊重する態度を育てる。 【A2③再掲】</p> <p>⑤ 過去の震災などの具体例から学ぶ機会を設け、防災教育を充実する。</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答率 87.9% 教職員の肯定的回答率 78.6% ・目標値、昨年度の肯定的回答より低くなっている。 ・環境委員会を新たに設け、緑化活動やリサイクル活動に力を入れて取り組んだ。 ・エコ活動や環境問題に取り組み関心を高めている児童も多い。</p> <p>【次年度の方針】 ・委員会での活動を全体に周知する場を設け、「持続可能な社会」にするには、自分の行動が深く関わっていることに気付かせたい。 ・環境問題やエコ活動に関する学習の充実のため、指導資料の共有の場を設け、整理・保管に努め、常に活用しやすい環境を整える。</p>
目 指 す 学 校 の 姿	<p>A13 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケートの「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童等の実態に応じて、適切な支援をしている。」 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 特別な支援を必要とする児童に対して、個別の支援計画や個別の指導計画を作成・活用し、共通理解を図り、学校全体で指導にあたる。</p> <p>② 特別な支援を必要とする児童を含むすべての児童にとって分かりやすい授業の展開や、誰にでもわかるユニバーサルデザインを意識した指導をし、適切な支援に努める。</p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答率 100.0% ・目標値を上回った。 ・配慮が必要な児童について、個別指導計画や支援計画を作成し、必要に応じて学校全体で共通理解を図りながら指導・支援を行った。 ・どの児童にも「分かる」教室環境作りや授業の展開の工夫など学校全体で取り組んだ。</p> <p>【次年度の方針】 ・今後も支援を必要な児童だけでなく、どの児童にも分かる授業・教</p>

<p>職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童等の実態に応じて、適切な支援をしている。」 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<p>画的に行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 外部の日本語指導支援員との連携が図られた。支援員が定期的に来校し、日本語指導を行うとともに授業内容についても支援を行った。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後とも、対象の児童に対して日本語指導の支援委員などの協力を得ながら支援を行う。
<p>A17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケートの「私は今の学校が好きです。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 学校評価、行事アンケート等を検証し、児童の思いを生かした学校行事、児童会活動、学年活動等を設定し実施する。 ② 児童一人一人のよさを伸ばす指導に努め、特色ある学校づくりや特別活動、道徳教育を推進し、望ましい人間関係の醸成に努める。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 児童の肯定的回答率 88.7%</p> <ul style="list-style-type: none"> 感染症予防のため学校行事や生活に制限があったこともあり、目標値を下回ったと考えられる。 児童会活動では、「みんなのめあて」の設定など、児童主体の活動になるように工夫した。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童の意見を取り入れた楽しい学校行事や、児童会活動・学年活動などを通して、望ましい人間関係の醸成に努める。
<p>A18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケートの「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 ⇒保護者の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 授業のねらいを明確にし、少人数指導やIT、課題別学習など各学年の実態や各単元に応じた指導法の工夫を図り、個に応じた多様な学習を展開する。 ② ICTを積極的に活用したり教材や提示資料を工夫したりして学習意欲を高める工夫をする。 ③ 宮っ子学力アップシートや漢字・計算オリンピック、読書をはじめ、朝の学習の時間などを活用して、基礎・基本の定着を図る。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 児童の肯定的回答率 96.2% 保護者の肯定的回答率 86.3%</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童の目標値は上回ったが、保護者の目標値は昨年度同様であるが、目標値 90%を下回った。 授業の中で「めあて」「まとめ」「ふりかえり」の一連の学習過程が定着している。 デジタル教科書や実物投影機、タブレットなどの ICT 機器の活用が定着してきており、児童の意欲や理解が高まってきている。 朝の学習時の漢字や計算、読書を中心とした学習により、学習の基礎・基本や語彙力が身に付いてきている。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 朝の学習の時間を活用して、さらなる基礎的・基本的な言語の力の定着化を図る。宮っ子学習シートを活用し、計画的に繰り返し学習することを継続していく。 引き続き、個に応じた言葉掛けや課題の提示の仕方をはじめとする指導・支援を工夫する。 学習の様子を学校のホームページに載せ、児童の取組状況などを家庭に発信していく。

目 指 す 学 校 の 姿	<p>A19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答90%以上</p>	<p>① 教員と専門性を有するスタッフがそれぞれの能力や専門性を生かしながら、学校の諸課題や運営等に相互に連携・協力しながら取り組む。</p> <p>② 「横央小の児童は全職員で育てる」という意識のもと、打合せ等を活用して全職員が児童理解に努め、担任以外の児童にも積極的に関わり、児童のよさ等を伝え合い、児童の成長を見守り支援・指導していく。</p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答率 100.0%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年同様に100%の回答であった。 ・それぞれの専門性を活かしながら、教職員全体で協力し、課題に取り組むことができた。 ・日頃から児童理解や学習指導などの情報を共有し、学年の枠を超えて連携し問題解決に取り組むことができた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次年度も、全職員がチームとなり連携を密にして対応に当たるようにする。
	<p>A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「学校は教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答90%以上</p>	<p>① 出退勤時刻記録の継続、月に一度の定時退勤日の確実な実施など、教職員が自己の勤務時間を意識したり、各業務の振り返りを通して、業務の効率性を考慮した計画や実施に努めたりする。</p> <p>② 業務効率の改善に向け、ペーパーレス化を推進し、学級事務や児童指導等の共有化を図る時間を確保するため、日課の変更等の検討を行う。</p> <p>③ 地域コーディネーターや学校支援ボランティア等の協力を得て、各教育活動の効果的で効率的な業務の改善に努める。</p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答率 60.7%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標値を下回った。 ・感染症対策の緩和もあり、本来の学校教育活動に戻りつつあるなか、コロナ以前の活動状況の把握や現状に応じた実施方法の検討などに時間を要した。また、様々な課題に対して教職員がチーム一体となって取り組んでいるので、学級事務等の業務時間を確保することが喫緊の課題である。 ・ICTを活用し、校内におけるペーパーレス化を進めてきた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度実施・検討した内容を活かし、業務の効率化に努める。 ・学級事務や児童指導等の共有化を図る時間確保のため、日課の変更を行うとともに、行事の開催通知などをメール配信するようにし、ペーパーレス化を図る。
目	<p>A21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「学校は、小学校と中学校が連携した『小中一貫教育・地域学校園』の取組を行っている。」 ⇒保護者の肯定的回答90%以上 ⇒教職員の肯定的回答90%以上</p>	<p>① 「あいさつ運動」など<u>地域学校園の取組をその都度、各種便り、ホームページ等を通して、実施の意義を含め、積極的に保護者や地域の方々に知らせる。</u></p> <p>② <u>小中学校での相互の授業参観や研究授業の公開、中学校からの乗り入れ授業等の積極的な交流を実施する。</u></p> <p>③ <u>各分科会や学校一人配置職員の分科会を通して、地域学校園内の相互支援体制を充実する。</u></p>	<p>【達成状況】 保護者の肯定的回答率 85.0% 教職員の肯定的回答率 89.3%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標値を下回った。 ・感染症対策を講じつつ、地域学校園での取組は前年度より増えてきた。 ・学校事務・養護教諭・栄養士間で積極的な情報交換を行っている。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中校が互いに統一して実施している取組等を、積極的に発信していくことで、地域学校園の有用性を紹介していく。

指 す 学 校			<ul style="list-style-type: none"> ・保護者には、宮っ子チャレンジウィークや乗り入れ授業、中学校訪問等、小中一貫教育の具体的な取組について、懇談会等を活用して説明する場を増やしていく。校内においても実施した学年が教職員に内容等を紹介する場を設ける。
の 姿	<p>A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「私は、地域や企業の方々と一緒に活動することで学習が充実し、楽しい。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 保護者による学習支援ボランティアや街の先生や読み聞かせ、安全ボランティア等の地域教育力を積極的に生かした体験型学習の充実をめぐる。(地域・保護者等と協力体制をとって、感染症対策を施す。)</p> <p>② <u>横川地域学校園の地域人材等について、交流連携分科会において、情報の共有化を図り、活用に努める。</u></p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答率 90.6%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標値を上回った。 ・地域の方の協力を得て、学校の教育活動の充実が図られた。 ・地域・保護者等と協力体制をとって、感染症対策を施しながら、教育活動が展開できた。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全ボランティアや学習支援ボランティア等に、引き続き協力をしていただき、教育活動の充実を図る。 ・学校の特色ある活動が、地域の方の協力を得ていることを児童に広く知らせるため、地域の方との行事をまとめ、児童会の全校集会等の様々な場面で紹介をしていく。学校外部の方との教育活動についても、ホームページ等を活用して広報の充実を図る。
	<p>A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「学校は、家庭、地域、企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 ⇒保護者の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 保護者・地域との連携を推進し、安全や学習支援をいただいているボランティア等の積極的な活用を図る。(地域・保護者等と協力体制をとって、感染症対策を施す。)</p> <p>② <u>横川地域学校園の地域人材等について、交流連携分科会において、情報の共有化を図り、活用に努める。【A22②再掲】</u></p> <p>③ 本校の取組や各学年の行事等について、各種便りやホームページ等で保護者に発信する。</p>	<p>【達成状況】 保護者の肯定的回答率 86.3%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標値を下回った。 ・連携・協力した取組回数は増えてきたが、取組の状況を実施後すぐに発信する機会が少なかった。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学年において、地域ボランティアや企業の出前講座を活用する際、継続性や系統性のある教育活動ができるよう、教育課程に位置付けを図っていく。 ・保護者のより一層の協力を呼びかけるとともに、本校の取組を発信する機会を増やすよう努めている。
	<p>A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「学校は、利用する人の安</p>	<p>① 縦割り班による清掃指導の充実を図り、清潔で心休まる学習環境を整え、毎日の荷物の整理や片づけなど教室の美化に努める。</p> <p>② 毎月の安全点検や定期的な教材・備品等の整理整頓により、</p>	<p>【達成状況】 保護者の肯定的回答率 89.5%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標値をやや下回った。 ・日々の清掃指導や毎月の施設設備の安全点検を実施し、可能な限り修理修繕を実施した。 ・休み時間の校庭でのケガが多かつ

<p>全に配慮した環境づくりに努めている。」 ⇒保護者の肯定的回答 90%以上</p>	<p>危険箇所や不備について迅速な改善に努める。</p> <p>③ 避難訓練や引渡し訓練等を通して、不測の事態への備えを万全にする。</p> <p>④ 校庭での正しい遊び方や室内での安全な過ごし方について、日常的に指導するとともに学級活動等の授業における指導を充実し、児童の意識を高めていく。</p> <p>⑤ 新型コロナウイルス等の感染症拡大や熱中症予防対策など、時期や状況に応じた保健指導や管理に努めるとともに、実施した対策や児童の様子などを積極的に保護者へ発信する。</p>	<p>た。校庭での遊び方について再度指導が必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染症等の予防について、養護教諭が中心となり検討や周知を行い、全職員で取り組んだ。 ・校内オンラインによる各種避難訓練を確実に実施した。 ・感染症予防の観点から、引き渡し訓練を工夫して実施した。 ・校内事故発生時の迅速な対応に向けて連絡体制等の見直し、強化を図った。 ・以上のような取組を実施してきたが保護者への伝達・周知が十分でなかったと思われる。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校庭での正しい遊び方や室内での安全な過ごし方について、日常的に指導するとともに学級活動等の授業における指導を充実し、児童の意識を高めていく。 ・各委員会で呼びかけやポスター掲示など児童主体の活動を行う。 ・感染症予防に関する基本的な生活について学年の発達の段階や状況に応じた指導を継続する。 ・ホームページや各種たよりなどで保護者に周知し、学校の取組への理解・協力を得る。
<p>A25 学校は、学習に必要なICT機器や図書等を整えている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「児童は、パソコンや図書等を学習に活用している。」 ⇒保護者の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 授業の中で実物投影機、デジタル教科書、一人一端末等ICT機器を有効活用し、学習活動の充実を図る。【A10 再掲】</p> <p>② プログラミング学習の実施により、児童がコンピュータや情報機器に親しみ、適切に活用する能力を育成する。【A10 再掲】</p> <p>③ 随時蔵書を点検し、学習内容との関連に配慮した図書の整備と拡充のため、図書選定委員会を通して計画的に補充するなど学校図書館の環境整備に努める。【A10 再掲】</p>	<p>【達成状況】 保護者の肯定的回答率 85.3%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標値を下回った。 ・一人一台端末を導入し授業で活用してきているが、保護者には知らせる機会が十分であったとはいえない。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書やICT機器を活用した授業の様子をHPや学年だよりを活用して保護者に発信していく。 ・様々な教科でICT機器やタブレット端末を利用する場を設定し、授業で効果的に活用していく。 ・図書やICT機器を活用した授業の様子をHPや学年だよりを活用して保護者に発信していく。
<p>本校の特色</p> <p>B1 勤労生産的な活動を計画的に実施し、働く喜びを知る児童の育成に努めている。</p> <p>【数値指標】</p>	<p>① 縦割り清掃、クリーン活動、勤労タイム等に児童が主体的に取り組めるよう、計画・実施する。</p> <p>② 米作り体験や教材園などの栽培</p>	<p>【達成状況】 児童の肯定的回答率 91.5%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標値を上回った。 ・感染症対策の制限を施しながら清掃活動を行った。

<p>・課題等</p>	<p>全体アンケートの「私は、清掃活動や栽培活動に一生懸命取り組んでいる。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上</p>	<p>活動を計画的・継続的に実施する。</p>	<p>・天候の関係で、米づくり体験の実施時間を短縮したが、十分な活動を行うことができた。 【次年度の方針】 ・児童が主体的に取り組めるよう、引き続き、計画的・継続的に実施する。</p>
	<p>B2 児童は、主体的に考え、互いに学び合う力が育っている。 【数値指標】 全体アンケートの「私は、自分の考えを伝えたり、友達の考えを聞いたりしながら、学習することが楽しい。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 授業において、児童が自分の思いや考えを豊かに表現し、学び合える学習活動を重視する。 【A1③再掲】 ② 主体的・対話的で深い学びの実現に向け、授業を相互に見せ合う機会や研修を継続し、教職員の授業力向上に努める。 ③ 外部指導者による校内研修サポート事業を実施し、協同的な授業づくりと教員同士が学び合い高め合う授業研究会を実施する。</p>	<p>B 【達成状況】 児童の肯定的回答率 89.6% 教職員の肯定的回答率 96.4% ・目標値をわずかに下回った。 ・「主体的に、自分の考えや思いを表現し、学び合う児童の育成～ICTを活用して、言語活動「書くこと」の充実を目指す～」という研究主題のもと、外部講師から指導・助言を受けたり、校内一人一公開授業を継続して行ったりして、教員が協働的に学び合いながら授業力の向上に努めた。 ・児童は、様々な場面でICTを活用しながら「書く」活動に取り組み、自分と友達の考えを交流する経験を重ねることで、「書くこと」に対する抵抗感が軽減してきている。 【次年度の方針】 ・児童が理由や根拠を明確に示しながら自分の考えを表現したり、友達と協働しながら学びを深めたりできるような授業を実践し、授業研究会や校内研修サポート事業を活用して指導力の向上を目指す。</p>
	<p>B3 児童は、自分のよさに気づきいきいきと生活している。 【数値指標】 全体アンケートの「先生は、自分のよいところや努力を認め、ほめたり励ましたりしてくれる。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 ⇒保護者の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 授業や生活の振り返り活動を重視し、児童が発揮したよさや努力したことが自覚できるような自己評価や相互評価の場を設ける。 ② 教室の思ちゃんカードを活用するなど、児童相互に認め合う場を多く設けるとともに、教職員も認めて褒めて励ます指導に努める。</p>	<p>B 【達成状況】 児童の肯定的回答率 92.3% 保護者の肯定的回答率 91.9% ・目標値を上回った。 ・授業や生活の振り返り活動を重視し、自己評価や相互評価の場を設けることで、自己存在感の高揚を図った。 ・児童相互に認め合う場を設定することで、自尊感情や自己有用感の高揚を図った。 【次年度の方針】 ・思ちゃんカードなどを活用し、一人一人が自分のよさや頑張りを自己評価したり互いに認め合う場を数多く設定したりする取組を継続する。 ・授業や生活の場面で、教職員によ</p>

				る、認め励ます指導を継続していく。
--	--	--	--	-------------------

7 [総合的な評価]

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

今年度も、新型コロナウイルス感染症対策を施しながらの教育活動を実施してきた。しかし、感染対策の緩和もあり、本来の学校教育活動に戻りつつある。しかし、各行事等が一部中止や変更になるなど、今年度も、保護者や地域の方々に本校教育への理解をしていただく機会が不十分な中でのアンケートになってしまった。

今年度は、アンケート 28 項目（うち 3 項目は学校独自項目）中、20 項目が対象者数値指標を同程度または上回った。ただし、今年度、保護者対象指標が達成しなかった項目もあった。しかし、市の割合と比較すると、全対象者において、約 8 割の項目が上回っている。さらに、昨年度の本校の割合と比較すると、全対象者において、半分以上の項目が昨年度を上回っている。

今後はさらに、学校や児童の様子、家庭・地域と連携している具体的な取組を積極的に発信し、保護者の理解と協力を得た教育活動に取り組んでいきたい。

重点目標「思いやりの心の育成」に関する「児童生徒はだれに対しても思いやりの心をもって優しく接している」についての肯定的な回答は、全ての対象者において 92%以上であり、昨年度を上回っている。いじめ対策への取組については、年間を通して定期的なアンケート調査と年 2 回の教育相談週間の実施、「いじめゼロ集会」「いじめゼロ標語」などの児童主体の活動、その都度行う教育相談等を行ったことで、いじめの早期発見や解決に向けて対応したが、保護者と児童において肯定的な回答割合は昨年度をやや下回った。引き続き、相談の機会を中心に、児童の悩みや心配事をいち早くキャッチし、寄り添いながら対応するとともに、学校の取組を保護者に周知する方法を工夫していきたい。「きまりやマナーを守って生活をしている」については、いずれの対象者も昨年度を上回り、学校全体として落ち着いた生活ができていることを示した。

重点目標「学力向上」に関する「児童生徒は授業中、話をしっかりと聞いたり、発表したりするなど、進んで学習に取り組んでいる」については、昨年度をやや下回ったものの、いずれも 90%を超える高い数値を示している。「分かりやすい授業や一人一人のきめ細かな指導」については、昨年度と同程度の割合であった。年度途中から、教員の欠員による不十分な指導体制のなか、本来、3 年生以上で実施する算数 T・T 授業や習熟度学習が実施できなかったが、指導内容や方法を工夫した教育活動が維持できたと考える。

「ICT 機器や図書等を学習に活用」については、市の ICT 支援員の協力を得ながら、学年の発達段階に応じたタブレット端末の活用を進めてきた。

重点目標「体力向上（保健・食・安全）」に関して、「児童生徒は、健康や安全に気を付けて生活している」については、いずれの対象者も高い割合を示している。サーキットトレーニングを取り入れた基礎体力の向上や各種運動検定の実施、感染症対応や熱中症予防対策等に応じた生活の仕方や望ましい食習慣の指導を通して自己の健康を大切に管理する態度の育成に努めた。

重点目標「地域とともに歩む学校づくり」に関して、「小中一貫・地域学校園の取組」の肯定的回答割合は、地域住民 100%は昨年同様、他の対象者は昨年度よりも上回り、市よりも高い。実際に連携して行っている乗り入れ授業や食育や図書館教育などの取組を会議や各種便り、ホームページ掲載等を通して周知してきた。「家庭・地域・企業等と連携・協力」については、米作りや消防団見学など可能な限り地域の方々の協力を得たが、感染症対策のため、従来行ってきた「1 年生昔遊び」や「親子給食」、「幼稚園交流」「工場見学」他、実施できていない。

今年度は、PTA の連携・協力のもと、3 年ぶりに「横央祭」「親子ふれあい活動」が実施された。児童にとって、楽しい PTA 行事として心に残る思い出となった。また、全校保護者による下校指導や年間を通しての学習ボランティア活動により、常に児童の安全や学習環境整備にご協力いただき、とてもありがたい。

学校運営に関して、「職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる」は、昨年同様、100%であった。児童指導や学習指導など学校の課題に対して、全体で共通理解を図り、教職員の各専門性を生かしながら、連携・協力し、解決に向けて取り組んだ。また、授業力や学級経営力等の資質向上に向けて、教職員自らが学び合う研修を実施することができた。しかし、「教職員の勤務時間を意識した業務の効

率化」に関しては、昨年度を大きく下回った。超過勤務が常態化し、月 80 時間以上の超過勤務をする教職員も少なくない。

8 学校関係者評価

○第 2 回地域協議会（授業見学を含む）

- ・コロナで思うような活動が出来ない中、学校が子ども達の為に何が出来るか良く考えて運営していると思う。
- ・登下校時の子供たちのあいさつに元気がほしい。地域住民の子供たちへの関わり方を考えたい。（挨拶たすきの活用法など）

○第 3 回地域協議会

- ・全体的に学校の取組が良く、学校生活に良い影響を与えていると思う。子供たちのために、学校・保護者・地域が一つになってよりよい活動ができるよう、サポートしたい。
- ・コロナのために大変な中、様々な工夫をしながら、子供たちのために教職員の方、PTAの方が頑張ってくださっているのが分かり、ありがたく思う。
- ・いじめに関する項目は、保護者の意識が低いのに子供たちの評価が高いのは、学校内の努力の表れだと感じた。
- ・結果を見ると、コロナ感染症対策のため学校行事の縮小や参加人員制限等が続き、学校生活における児童の動向を保護者が把握しきれないように思える。来年度は、行動緩和が実行されていくであろうから、保護者の関心度が上昇していくことを期待している。
- ・教職員の勤務時間が短縮され、一人一人が心に余裕を生みだせるような方策の検討をお願いしたい。
- ・感染症対策が緩和されることを受け、部会として活動再開をするにあたり今まで以上の協力を図りたい。
- ・今後とも交通安全や防犯関係の問題があれば協力していきたい。
- ・学習ボランティア募集について、引き続き、便りに載せるなどしてほしい。

9 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

今年度も学校教育目標の具現化に向けて、「思いやり・健康・働く喜び・共に学ぶ 楽しい学校」を目指し学校像として、重点化を図りながら教育活動の充実を図ってきた。また、これらの実現のためには、保護者・地域と連携・協働した事業の展開が不可欠なため、「魅力ある学校づくり協議会」を核として、共に学ぶ楽しい学校づくりを目指してきた。今年度は、コロナ禍においても少しずつではあるが、実施方法を工夫しながら、活動や行事を行うことができた。

今回の評価結果と学校内自己評価をもとに、次年度の方策について検討した。

- ・児童が夢や目標をもち、明るく生き生きと物事に取り組めるように、引き続き、児童の主体性を大切に、実践意欲や態度を育て、学校行事や児童会活動・学年活動などに取り組めるよう指導・支援していく。
- ・地域の方との交流や地域の行事への参加は、地域への愛着や自己の存在感を高め、児童の心の育成に大切な関わりであることから、今後も、参加を促したり可能な限り実施したりしていく。
- ・小中一貫教育・地域学校園の取組については、市が、令和 5 年度から新しい方向性を示すことから、学校園でも新たな方針や取組について共有し合い、児童・生徒の健全な育成に協働的に取り組む。
- ・学校の業務については、これまでも学校ボランティアの協力を得ることで負担軽減がなされてきている。今後は、教職員が児童と向き合える時間や授業づくり、児童指導についての共有の時間を確保するため、日課の変更や校務の見直し、メール配信システムを活用したペーパーレス化などを実施し、業務の効率化に努め、労働時間の適性を推進する。